

J-STAGE NEWS

1-21VCE J-STAGEニュース

電子ジャーナルの最新情報をおとどけるJ-STAGE機関紙

No. 44

J-STAGE

Online ISSN: 2434-4311

2020年10月7日発行

国立研究開発法人
科学技術振興機構

目次：

- JaLC-ORCID連携について 1
- 【シリーズ学会訪問】
～藤田学園医学会～ 3
- 【J-STAGEアップデートのお知らせ】
～全文XML作成ツール、他～ 4
- 2020年度 第1回 J-STAGEセミナー
開催報告 6
- 編集後記 6

JaLC-ORCID連携について

<https://doi.org/10.34344/jstagenews.2020.44.1>

ジャパンリンクセンター（JaLC）では、今年度よりORCIDと連携した新機能をリリースいたしました。

JaLCは国内唯一のDOI登録機関として、J-STAGE登載誌をはじめ様々なコンテンツへのDOI登録を行っています。また、DOI登録・管理業務に加えてDOI登録対象コンテンツのメタデータ管理や提供、外部機関との連携などを行うことで、国内のコンテンツ利活用を促すと共に、世界から日本の研究成果へのアクセス環境の向上に努めております。その一環として、ORCIDと連携しています。

ORCIDとは、研究者を特定できるIDナンバーで、無料で取得でき、学術活動等において利用されています。2020年8月現在で登録者数は全世界で930万人を超えており、論文投稿時やポストへの応募時などの研究活動や研究支援において世界中で広く活用されています。

JaLCではORCIDとの連携により、JaLC DOIを登録した論文情報等を、研究者の業績情報としてORCIDに登録する新機能をリリースしました。登録手段に応じて「自動連携機能」と「業績登録機能」の2つを使い分けることが出来ます。これらの機能を利用することで、研究者がORCIDにおいて自身の業績を管理する際の負担を軽減し、JaLCコンテンツとして保証された、信頼性の高い業績情報をORCIDに登録することができます。以下、これらの機能について詳しく説明します。

【ORCIDへのログイン】

本機能を利用するには、まずORCIDにログインします。JaLCのコンテンツ検索ページからログインする方法と、ORCIDサイトに直接ログインし、ORCIDマイページ内の「検索とリンク」でJaLCを選択する方法の2通りがあります。



ORCIDへのログイン方法



JaLCコンテンツ検索画面

【自動連携機能 (Auto-Update)】

自動連携機能は、JaLCコンテンツ検索画面 (<https://japanlinkcenter.org/app/pub/search>) にてあらかじめ設定しておくことで、JaLC DOIが付与されたコンテンツを、研究者のORCIDマイページの業績情報として自動的に登録することができる機能です。ただし、この機能で自動登録されるのは、研究者自身のORCID IDが含まれているコンテンツのみとなります。

【業績登録機能 (Search&Link)】

業績登録機能は、JaLCコンテンツ検索画面で検索したコンテンツを、研究者のORCIDマイページの業績情報として手動で登録できる機能です。ORCID IDが登録されていなくても利用することができます。

下記リリースノートもご参照ください。

https://japanlinkcenter.org/top/doc/ReleaseNotes_20200527.pdf

今年5月末にサービスを開始し、8月末時点で「業績登録機能」の利用回数は約4,000件、ORCIDマイページからのログイン数は約9,000件にのぼっています。一方、自動連携機能の利用者は少数にとどまっています。また、自動連携機能を使用するためにはコンテンツの書誌情報にあらかじめ著者のORCID IDが登録されている必要がありますが、J-STAGE登載誌においてORCID IDが登録されている記事は数%にとどまっています。組織や研究者ご自身による業績管理をより快適にするためにも、JaLC DOIご登録の際にはORCID IDをぜひご登録ください。



ORCID設定画面



【シリーズ学会訪問】～藤田学園医学会～

<https://doi.org/10.34344/jstagenews.2020.44.2>

本号の「学会訪問」は、藤田学園医学会の「Fujita Medical Journal」誌の八谷寛編集委員長*、杉浦一充次期編集委員長*、大嶋一恵様（図書館事務局）にお話を伺いました。「Fujita Medical Journal」は、2015年の創刊号からJ-STAGEにてオープンアクセスで公開されています。また、DOAJにも収録され、全文XML形式を採用しています。

●貴学会のご紹介と「Fujita Medical Journal」誌の沿革、特徴、アピール点をお聞かせください。

本会は医学・保健衛生学ならびに関連諸科学の進歩と発展を図ることを目的とした学会で、1980年（昭和50年）に発足し、藤田学園の教職員、学生、出身者を主な構成員としています。学会誌は「藤田学園医学会誌」（和文）と「Fujita Medical Journal」（英文誌）を発行しています。

「Fujita Medical Journal」は2015年に創刊しました。2014年に準備委員会、その後すぐに編集委員会が発足し、論文募集を開始しました。藤田医科大学が医学・看護・リハビリテーション・検査・医療工学等の学部・学科を有する医学・医療系の総合大学で、総合医科学研究所という研究所もあることから、当誌は医学・医療分野の総合誌としての特徴を有しています。また医学教育に関する研究報告の他、症例報告の投稿も多くあります。論文種別としてStudy protocolやCohort profileを設けている他、preliminaryな検討結果の投稿をShort reportとして受け付けています。創刊当初は学会ホームページで全文を公開していましたが、2016年にJ-STAGEに収録して以降、雑誌のvisibilityが各段に向上しました。

また、オンライン査読システムの導入、DOAJ収録などによって雑誌の質が大きく向上し、事務局機能の強化や印刷会社の見直しによってXML形式でのJ-STAGEへの登載を可能としました。このように、J-STAGE収録は「Fujita Medical Journal」にとって大きな転機となりました。

●貴学会の国際発信へ向けた活動、およびオープンアクセスに対する取り組みについてお聞かせください。

「Fujita Medical Journal」はオープンアクセス誌として、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス（CCライセンス）を表示しています。創刊当初は手探りでCCライセンスの種類を勉強するところから始めました。国際発信の最も重要なステップとして、2019年からDOAJに収録され、XMLを提供しています。

現在は、医学系の代表的なデータベースであるPubMedで検索されることを目標として、そのオープンアクセス誌版データベースであるPMCへの収録を目指しています。その他、ScopusやScience Citation Index (SCI) などのデータベースに収録されることも重要と考えています。

●J-STAGEについて（システム機能面、サービス面、登載データ）はいかがでしょうか。

Google Scholar、PubMedなどとの連携が確保され、また医中誌や日本の学術データベースとの連携もあり、日本に拠点を置く学協会としてJ-STAGEを使わせていただけるメリットは大きく、無償で利用できるため大変有難く思います。

今後、J-STAGEに期待したいことは、Table of contents配信やAdvance open publicationのE-alertなどの充実、Journalホームページのカスタマイズでしょうか。



杉浦次期編集委員長*（左）と八谷編集委員長*

●J-STAGEでは現在、プレプリントサーバについて検討しています。貴学会のプレプリントに対する考えをお聞かせください。

本誌としては迅速な査読、早期公開の体制も整えたいと考えています。著者のニーズとして、重要な知見を、査読者や編集委員会による選択を経ずに迅速に世界に知らしめることは、インターネットで科学者同士が自由に意見交換し、科学の発展を促すための重要なモデルだと思います。また、雑誌への投稿を前提とし、Dataを公開した上でのプレプリントは有用となる可能性があると思います。雑誌としては、プレプリントの掲載履歴をどのように論文に記載するのか、プレプリントの段階で著者が他の科学者から得た意見をどのようにacknowledgeさせるか、当該ジャーナルによる査読との関係などの検討課題があると思います。既にこうした議論が多くなされていると思いますので、情報が提供されるとありがたいです。プレプリントサーバとして有用なものになるためには、それなりに認知され、多くの知見が集積し、広く世界に向けて発信されて、意見交換も行われることが重要で、戦略も必要だと思います。

●日本の学協会の課題・問題点、今後の学会誌の電子ジャーナル出版のあるべき方向性について、いかがお考えでしょうか。

海外の出版社の営業活動が活発になっていると思います。Elsevier、Wileyなどそれぞれが、ジャーナルインパクトファクターなどの影響力を有する指標を握っており、学協会にとってある程度の魅力はあるかもしれませんが、J-STAGEは現状の方針を大きく変えなくてもいいと思います。

●最後に、貴学会あるいは貴ジャーナルの今後の方針（抱負）についてお願いします。

昨年度から、International Advisory Boardの委嘱、査読者表彰、査読者向けのセミナー実施、優秀論文賞、Publons収録をなど行っております。今後も、特徴ある取り組みを心がけていきたいと思っています。

●ありがとうございました。J-STAGEも利用機関の期待に答えられるよう努めてまいります。

*文中の肩書は取材当時（2020年9月）のもので、2020年10月1日付けで、杉浦一充氏が編集委員長に就任されました。（J-STAGEニュース編集事務局）

【J-STAGEアップデートのお知らせ】～全文XML作成ツール、他～

<https://doi.org/10.34344/jstagenews.2020.44.3>

J-STAGEでは、ユーザーからの要望や電子ジャーナル出版業界の最新動向を踏まえ、システムの改善や機能拡張に取り組んでいます。今号から連載となるこのコーナーでは、開発・改修中あるいは新たにリリースされた機能・ツールについてご紹介します。

今回ご紹介するのは、2020年（令和2年）9月にリリースされた以下の機能・ツールです。

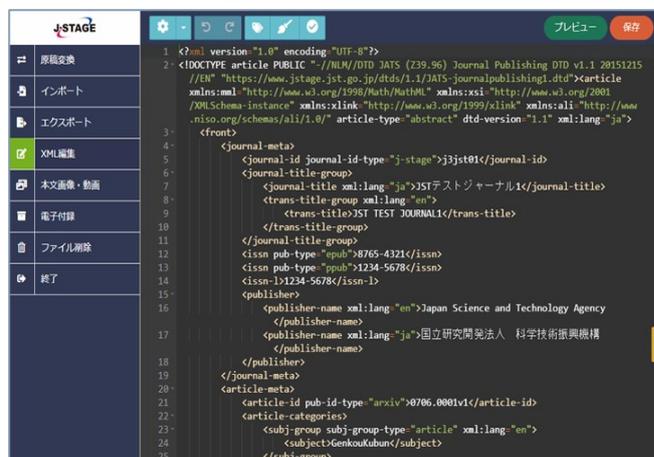
1. 全文XML作成ツール
2. PMC*1)、DOAJ*2)形式ファイル ダウンロード機能
3. 早期公開版管理機能
4. 抄録ライセンスフラグ項目の追加

*1) 米国の国立生物工学情報センター(NCBI)が運営する、生物医学・生命科学のオンライン論文アーカイブ。 <https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/>
*2) 英国の非営利団体IS4OAが運営する、独自の基準を満たすオープンアクセスジャーナルと論文の情報が掲載されたウェブサイト。 <https://doaj.org/>

1. 全文XML作成ツール

WordもしくはLaTeX形式の原稿ファイルを元に、J-STAGEに搭載できる形式の全文XMLファイルを作成・編集できるツールです。

WordもしくはLaTeX形式の原稿ファイルを本ツールで読み込むと、あらかじめ設定済みの自動変換できる部分がXMLの記述に変換されます。ツール上でXMLの記述を確認し、必要に応じて編集を行います。ツール内にはプレビュー機能があり、J-STAGEの公開画面イメージを確認することができます。完成したXMLデータをエクスポートした後、編集搭載システムからアップロードすることで、HTML画面での本文表示が可能になります。

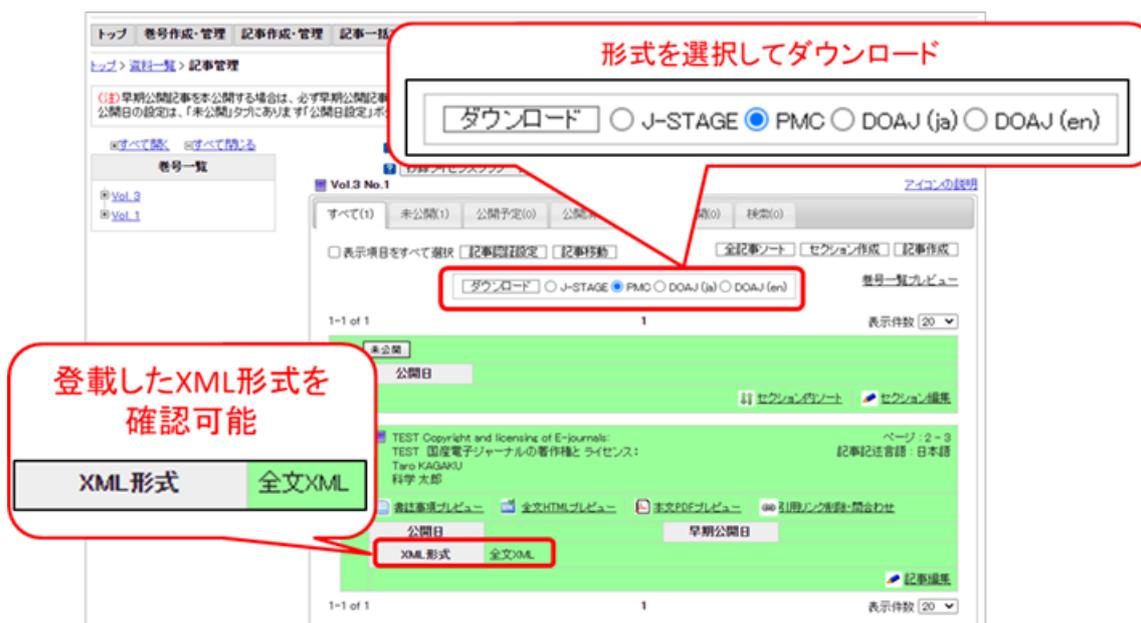


全文XML作成ツール・「XML編集」画面

2. PMC、DOAJ形式ファイル ダウンロード機能

これまで、発行機関向けにJ-STAGE形式のXMLをダウンロードする機能はありましたが、さらに、PMCまたはDOAJに対応した形式にXMLファイルを変換しダウンロードできる機能をリリースしました。

XML登載の「記事作成・管理」画面において、「PMC」「DOAJ(ja)」「DOAJ(en)」のラジオボタンから形式を選択し「ダウンロード」ボタンを押下することで、PMC、DOAJ



XMLファイルのダウンロード機能

が求める要件にそれぞれ対応した形式のXMLデータをダウンロードできます。ダウンロードしたデータは、PMCまたはDOAJへのXMLデータのアップロードに利用可能です。ただし、PMC形式は全文XMLで掲載された記事のみ利用可能です（掲載したXMLの形式は記事毎に確認できます）。なお、実際にPMC、DOAJにデータをアップロードするには事前に各サイトへの申請手続き等が必要です。

3. 早期公開版管理機能

早期公開記事の改版記事を登録・公開できる機能です。早期公開記事のアクセプト版からタイプセット版への差し替え等、記事の体裁の変更などの改訂を行う用途で利用できます。早期公開記事、早期公開の改版記事、本公開記事にはすべて同じDOIが付与されます。従来どおり、改版記事の公開を行わずに本公開記事を公開することも可能です。

4. 抄録ライセンスフラグ項目の追加

抄録ライセンスフラグとは、各記事の抄録の二次利用を許可するかどうかの設定を行うフラグです。JaLC（ジャパンリンクセンター）を経由してJaLCの正会員または連携機関以外の第三者*3)へ抄録を提供する際、同フラグの付与によって抄録の利用許諾/拒否を示すことができます*4)。第三者による抄録の利用を許可すると、論文へのアクセス数増加やそれに伴う研究成果のプレゼンス向上が大きく期待される他、例えば機械翻訳した抄録データを作成して提供する機能が将来的*5)に実装された場合等でそのような利用を許諾することができます。

リリース時、記事の抄録ライセンスフラグはデフォルトで“二次利用不可”の状態になっています。第三者による抄録の利用を許可する場合は、発行機関で確認の上“二次利用可”への設定変更を行ってください。

*3) JaLCの正会員および連携機関においては、JaLCの参加規約（https://japanlinkcenter.org/top/doc/JaLC_sankakiyaku.pdf）に基づき、今回リリースされる抄録ライセンスフラグの設定内容にかかわらず、全ての抄録の利用が認められています。

*4) JaLCの抄録および抄録ライセンスフラグ提供機能はリリース時点では未実装（2020年度内に実装予定）です。

*5) リリース時点では未実装です。

各機能・ツールの詳細や実際の操作手順については、リリースノートをご覧ください。

リリースノート https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/pub_release_edit_20200926.pdf

本件に関する質問等は下記までお問い合わせください。

JST（科学技術振興機構）情報基盤事業部

J-STAGE センター

メールアドレス：center@jstage.jst.go.jp

version 2
テスト論文タイトル
科学 太郎
著者情報
ジャーナル オープンアクセス 早期公開
論文ID: XXXXX
DOI <https://doi.org/10.XXXX/XXXXXXXXXX>
version 2 :
version 1 : 2020/07/04
詳細
●発行日: 2020 年 ●受付日: 2020/06/24
●J-STAGE公開日: 2020/07/04 ●受理日: 2020/06/24
●早期公開 ●改訂日: -
[version 2] 公開日: 2020/08/18
[version 1] 公開日: 2020/07/04
早期公開記事改版情報
●改版日: YYYY/MM/DD ●改版理由: 版が更新されました。
●改版箇所: 書誌事項本文PDF ●改版内容: -

- ・版名がリンクになって表示
- ・版名リンクから改版前の記事を参照可能。
- ・各版の公開日が表示
- ・版毎の公開日が表示
- ・改版履歴が表示

早期公開の改版記事を登録した場合の公開画面のイメージ



2020年度 第1回J-STAGEセミナー開催報告

<https://doi.org/10.34344/jstagenews.2020.44.4>

2020年8月28日(金)、今年度第1回のJ-STAGEセミナーを開催しました。

J-STAGEセミナーは毎年、年間のテーマを掲げています。2018年度は「ジャーナルのプレゼンス向上に向けて」、2019年度は「国際動向への対応」、そして今年度は「ジャーナルから見た研究データ」と決めました。

第1回J-STAGEセミナーは「研究データ公開の意義」と題し、研究データ公開が学術コミュニケーションにもたらす変化や、海外ジャーナルの動向等についての解説と共に、論文著者の研究データ公開に関する事例を紹介しました。

《プログラム》

- 基調講演：「研究データ公開が学術コミュニケーションにもたらす変化」－倉田敬子氏（慶應義塾大学）
- 「Research data and scholarly journals: developments, policy and implementation」－Dugald McGlashan氏（INLEXIO）
- 「社会科学分野における研究データ公開」－朝岡 誠氏（国立情報学研究所）
- 「実験技術開発における研究データ公開の役割について」－笹川 洋平氏（理化学研究所）
- 「J-STAGE Dataのご紹介」－JST

今回のJ-STAGEセミナーは、コロナ禍の影響によりWeb開催となりました。Web開催は初めての試みでありましたが203名もの参加をいただき、講演終了後のアンケートでは、「オープンデータに関する基本的な流れが理解できた」「データ公開が積極的な分野の、最前線の話が大変参考になった」などの回

答をいただきました。なお、講演の内容はJ-STAGE Youtubeチャンネル*1)で公開しておりますので、ぜひご覧ください。また、講演のスライドはJ-STAGEのサイト*2)から閲覧できます。

*1) https://www.youtube.com/playlist?list=PLSXgr8_ZxZT3EtDy75pVldQzd6Nm4y1E3

*2) <https://www.jstage.jst.go.jp/static/pages/News/TAB4/PastIssues/-char/ja#2009/14>

第2回 J-STAGEセミナーは、STM（STM国際出版社協会）とのジョイントセミナーとして10月27日(火)にWeb開催いたします。データ公開を検討する参加者への情報提供を目的に、海外学術出版動向や海外ジャーナルのデータ公開事例等を紹介する予定です。皆さまのご参加をお待ちしております。



Web開催の様子



編集後記

●コロナ感染がなかなか収束しない状況下、J-STAGEでは参加機関とのオンライン会議による意見交換会を始めました。初めての経験でしたが、時間と場所の制約が少なく有効なコミュニケーション手段であることが分かりました。今後も是非、続けてまいりますのでよろしくお願いいたします。本ニュースでもご紹介していきます。(Y.M)

●世の中の学術情報流通が変化していくとともに、J-STAGEも常に進化しております。今年9月には全文XML作成ツール等のリリースがありました。これからも「J-STAGEアップデートのお知らせ」のコーナーで、J-STAGEの新たな機能や開発案件などをどんどん紹介していきたいと思っております。(K.O)

●健康診断シーズン到来。最近の話題は体重やコレステロール値の増加!? 食欲の秋もやってきましたが、うまくバランスをとって楽しんでいきたいですね♪(Y.K)

2つのTwitterを、ぜひフォローしてください！

◆JST公式Twitter (@JST_info) https://twitter.com/JST_info

プレスリリース・募集案内・イベント情報などをお届けします。

◆J-STAGE公式Twitter (@jstage_ej) https://twitter.com/jstage_ej

J-STAGEニュース No.44 2020年10月 7日発行
 編集発行：国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）
 情報基盤事業部 研究成果情報グループ
 〒102-8666
 東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザ
 電話 : 03-5214-8837 (ダイヤルイン)
 E-MAIL : contact@jstage.jst.go.jp